

K014

- T: はじめまして【T】と申します。
- I: はじめまし【I】と申します。
- T: よろしくお願ひします。
- I: こちらこそよろしくお願ひします。
- T: 【I】さんはお国はどちらですか？
- I: ブラジルです。
- T: ブラジルですか〈はい〉。
- えー、ブラジルのどこのご出身でしょうか？
- I: ブラジルの【地名1】、市です。
- T: あー〈はい〉、そうですか。
- 日本に来てからどれぐらいになりますか？
- I: えーっと、6年です。
- T: 6年ですか。
- で、時々やっぱりこう帰られるんですか、【地名1】に？
- I: んー、そうですね。
- 1年に、1回、…
- T: あっ、そうですかー。
- I: ぐらいは帰ってます。
- T: 私行ったことがないんですが、どんなところか、ちょっと、詳しく教えていただけますか？
- I: えーっと、【地名1】市内は、まあ〈はい〉、あの一、大都市なので〈はい〉、えー、主にビジネスが、メインになってきます〈はい〉。
- でー、やっぱり、あの一、レジャーとか〈はい〉、そちらのほう、あの一、主に、目的として行かれるんですけどら〈ええ〉、やっぱり、東北とか、ビーチサイドのほうがいいと思います。
- T: えっ？
- I: ビーチ、のほうが。
- T: あっ、ビーチ〈はい〉ですか、はい。
- 今、あの、ブラジルはどんな状況ですか？
- 経済ですとか。
- I: えーっと、経済的にはやっぱり、あの一、発展、してると思います〈はい〉。
- えーっと、特に資源が多いので〈ええ〉、鉄鉱石、あと石油〈はい〉、あー、バイオエネルギー〈はい〉諸々で〈はい〉、経済的な、あの、昔より豊かになっています。
- T: そうですね。
- ブリックスとか色々ね、こう、いま台頭してきているという事で、はい。
- あの一、今はお仕事でしょうか？
- で、日本でいらっしゃってるんでしょうか？
- I: そうですね。
- T: はい。
- I: はい。
- T: で、あの一、なんか、ちらっと学校、にも通ってらっしゃるという…
- I: 通ってます。
- T: ことですが、どんなことを勉強なさってるか伺ってもいいですか？
- I: はい。えーっと、【大学名】、んー、大学の〈はい〉博士課程の後期〈はい〉で〈はい〉、えーっと、経営学〈はい〉の方を勉強しています。
- T: あー、そうですか。
- それ、日本は、え、あの一、そ、えー、いらしてから、ということ。
- I: そうです。
- T: あー、そうですか、はい。
- えー、特にどのようなことを、ご研究なんんでしょうか？
- I: えーっと、研究の範囲は、あの一、通信業界における、まあ、プラットフォームを、プラットフォーム化〈はい〉、に対して〈はい〉、研究しています。

K014

- T: あー、そうですか〈はい〉、はい。
あの一、えー、日本の、じゃあ、IT産業なんかについてはどのようにお考えですか？。
- I: えーっと、特に携帯、にかん、関して、は、あの一、進んでると思います〈ええ〉、はい。
ただ、IT、に関しては〈はい〉、そういう、まあ、アメリカと、比べて〈はい〉、ソフトウェア関係の方が、えーっと、あまり、えー、イノベーション諸々、新しい、事が出ていないので〈うーん〉、そちらのほうにフォーカスするべきじゃないですかね。
- T: あー、そうですね。
あの一、私も、なんか、その、ITのこの、新しい技術をこう、開発しようという、機運があっても、その会社というかそういう企業のシステムが、あの、ちょっとまだ古いというか、そういうところが問題だっという風なこともよく聞くんですが、そのあたりはいかがですか？。
- I: そうですね〈うん〉。
えーっと、まあ、組織、組織的に〈はい〉、考えると、んー、その、何といいますか、アメリカとか欧米、みたいに、えー、うー、イノベーションを、まあ、促進するような〈はい〉組織が、まずできていないこと〈はい〉が挙げられます〈ええ〉。
で、もう一つの懸念としては〈はい〉、えー、んー、ベンチャー企業〈はい〉みたいなのが、日本では、ちょっと、あの一、発足されるのが〈はい〉難しいんじゃない、かなっていう。
- T: はい、そうですね。
- I: まあ社会的な問題もあります。
- T: はい、なかなか育たないという。
そういう気持ちがある、若者は多いんですけども、ベンチャー育たないって言います、言われますよね〈はい〉。
それは、どの、どんな日本、社会というか日本人の気質というか、どんなところ、特に問題というか、改善すべき点なんでしょうか？。
- I: んー、そうですねー。
ちょっと、あの、難しい質問ですけど〈はい〉、やっぱり、そういう、うーん、組織〈ええ〉、えー、自体が〈はい〉、えーっと、新しいブレイクスルーみたいな形の〈はい〉イノベーションが〈はい〉生まれないのは〈はい〉、そ、えー、あんまり、日本の、社会として得意な分野じゃないと思いますね〈んー〉。
なんか、ものづくり、とか〈んー〉、あと、そういう改正諸々、小さなことをどんどんよく〈んー〉改正していく〈んー〉っていうのが〈んー〉、日本の、ビジネスモデルであって〈んー〉、で、えー、そういう、新しいこと、イノベーション〈はい〉、そういう創造って言うのは〈はあはあ〉、ちょっと苦手じゃ〈はい〉ないですかね。
- T: 今、ものづくりは、っておっしゃってるんですけど、今、実はものづくりも、崩れつつありますよね、日本場合は。
その辺はどういうお考えですか？。
- I: んー、やっぱり〈はい〉、あの一、んー、そ、そこは、んーものづくりの〈ええ〉ほうで、やっぱり自動車とか〈うん〉、やっぱりあのトヨタ〈うん〉タさんとか、〈はい〉日産、さんとか、〈うん〉結構あの、世界中でも〈はい〉、えー、いい製品を出されてる、部分で〈はい〉、あと日本のものづくり自体としては〈はい〉、そんなに悪くないと思います、はい。
- T: あっ、そうですかー、はい。
あの一、せっかくものづくり大国日本が、いまや、あの一、そのあたりが崩れているみたいなね、言う方もよくすることが〈うーん〉あるんですけども。
- I: ただ、やっぱり、その、安価な、労働力、の簡単な製品とか〈はい〉、中国、ベトナム、東南アジアのほうに行きますけど〈ええ〉、えー、細かい技術〈うん、うん〉、あと、すり合わせ〈はい〉、みたいなことは〈はい〉、日本の得意分野なので〈ええ〉、これからもどんどんそっちのほうに〈はい〉、差別化していくべきじゃないかな。
- T: そうですね。
あの一、ほんとに、こう、精密的、機械ですとか、あの一、たくさんそういう、あの一、誇れるものはあると思うんですけど、どうしても日本場合は、あの一、サービス産業ですとか、そちらのほうに動きつつあるように思うんですけども、えー、もしそういうことアドバイスできる立場にあったとしたら、もっと日本は、その、ものづくり、大国日本というんですかね、そう、いうことをキープするには、どのようなこ

K014

とを、あの、アドバイスなさいますか？。

日本のほう、はい、社会に…

I : あー、やっぱりそういう、差別化、ですね〈はい〉、製品の〈はい〉。

あと日本の得意とするインテグラル、まあ、すり合わせ〈はい〉、みたいな分野をどんどん伸ばして〈んー〉いくべき〈んー〉。

モジュラー的な、単体の部品みたいなのは〈はい〉、まあ、中国とか〈んー〉、えーっと、ベトナムとか、諸々東南アジアの方に、出して行って、まあ〈うん、うん〉、日本のほうでは、そういう技術のレベル〈はい〉の高い〈ええ〉製品を、〈ええ〉生み出していけばいいと思います。

T : はい。差別化ですね、キーワードは。

I : そうですね。

T : はい。で、先ほどおっしゃった、あの一、創造的な事が、ちょっと弱いということですが、あたしはそれは、あの一、日本の教育、の内容とかシステムに、問題があるんじゃないかなーと思うんですけど、それはいかがお考えですか？。

I : 確かに、そうだと思いますね。

えーっと、まー、こういうこと言っただけは、〈ええ〉いいのかわかりませんが〈ええ〉、出る杭は打たれるっていうような形で…

T : まさにそのとおりです。はい。

I : できるだけ、みなさん〈はい〉同じレベルに〈はい〉保つていうことで〈ええ〉、まあ、それで、あの一、能力のあ、ある人間でも、まあ、のう、んー、こういうこと、あの一、差別化しちゃういけない〈ええ、ええ、ええ〉んですけど、まあ、おんなじようなレベル〈はい〉に保つていうことはあるし〈はい〉、なので、そういう教育制度にも〈はい〉、やっぱり、問題があるんじゃないすかね。

とくに、あの一、ゆとり教育ですか〈はい〉、で大学教育のレベルが、下がってるって話を聞きますし。

T : へー。

そしてやっぱりゆとり教育は、反対でらっしゃいますか？。

I : んー、そうですねー〈んー〉。

ある程度やっぱり、競争、がないと〈んー〉、えーっと、のんびり〈んー〉して、えー、ちと、レベルが落ちるんじゃないすかね。

T : あー、私はね、ゆとり教育は問題ではなくて〈はい〉、せっかく空いた時間を、うまく創造的な、あの一、事に使えなかった、えー、教師の、まあ、質ですとか〈うん〉、あの一、そちらの方に、問題かなって思うんですけども、いかがでしょうか？

I : 確かにそういう部分もあると〈ええ〉思います〈はい〉。

んー、ただ、あの一、やはり、あの、香港とか、シンガポールとか〈はい〉、学生見ると〈うん〉、すごく勉強してますね〈あー〉。

アメリカのほうでも。

T : なるほど。

I : 大学に入るのは〈うーん〉日本は難しいかも知れませんが〈うん〉、その、じゃあ、大学の4年間で〈うん〉何をしてるかって言うと〈うーん〉、あまり成果が〈うーん〉出てないような勉強の仕方してるじゃないすかね。

T : なるほどね。

日本は入りやすくて、…

I : そうですね。

T : あっ、入りにくくて、出やすいつて言われてますよね。

で、あの、その辺の、あの…

I : ギャップがあるんじゃないすか。

欧米の、やっぱり、あの〈はい〉、入るのも、まあ、比較的難しいですけど〈はい〉、出るのも難しい〈はい〉っていうことが〈ええ〉あるんで。

T : そうですね。

ブラジルはいかがなんでしょう、今の学校、生徒というか、状況は？。

I : も、やっぱり、いち、一流の大学とか〈はい〉、んー、競争率高いですね〈はい〉。

で、出るのも、まあ、難しいですね〈うーん〉、比較的。

K014

- T: んー、っていうことは、やっぱり、日本も、もう少し学校の制度を、あの一、ま、抜本的に考えて、えー競争も取り入れていくべきだっていうことでしょうか？
- I: そうですね。
- T: んー、わかりました。
え、ちょっと話は変わるんですけど、趣味は何でしょうか？
- I: 趣味はジョギングとか〈はい〉、マラソンとかしてます。
- T: そうですか。
- I: はい。
- T: マラソンの、その、醍醐味というか、楽しさってなんでしょうか？
- I: やっぱり己と、戦う〈んー〉。
で、自分の、その目標があって、目標の時間内に〈んー〉終えるっていうことが、まあ醍醐味ですかね。
- T: んー、なるほどね。
あの一、オリンピックで、に、あの一、マラソンをご覧になりましたか？
- I: はい。
- T: あの一、野口、みずきが、ぎりぎり、リタイアしましたよね？
- I: はい。
- T: あの一、あれについてどうお思いですか？
- I: んー、やっぱり、あの一、相当のプレッシャーがかかってて〈はい、ええ〉、で、故障とか〈はい〉、やっぱり、そういうのも、あるんじゃないですかね。
かわいそうでしたけどね。
- T: んー、でも私は、もっと早く決断をして、補欠の人が出られるような、ところで決断すべきじゃなかったかなと思うんですけど、その辺はどうでしょうか？
- I: 確かに、あの一、そうだと思いますけど〈ええ〉、えー、で、あとから補欠とか交代、できるのか、そういう制度的なのかちょっと。
- T: あっ、できるんですけども、日にちが過ぎてしまったんですよねー。
- I: あー、なるほど。
- T: だから、やっぱり、もっと早く本人が、出たい気持ちはわかるんですが、決断すべきだったかなって思うんですけどもいかがでしょうか？
- I: んー〈んー〉、確かにそうですね。
その通りだと思います。
- T: そうですか。
あ、で、今回北京の、あの一、一応大成功だったんですけども、非常にその、コマーシャルリズムの方に走っているっていうな、意見もあるんですけど、その辺はどうお考えですか？
- I: コマーシャルリズムですか？
- T: ええ。
やっぱり、こう、商業的に〈はい〉なっていつてしまってるっていうような〈んー〉、はい。
商店みたいですよ。
- I: まあ一、ま一、大々的な、イベントなので〈うん〉、オリンピックっていうのは〈うん〉、ある程度、そういうのが入っても〈うん〉、普通だと思いますね。
- T: そうですね〈んー〉。
うーん、少し行き過ぎていたような気がするんですけども。
- I: 確かにそういう、ことは、あると思いますけど〈んー〉、やっぱり、あの一、ある程度、そういう、スポンサーとか〈んー〉、入れないと〈んー〉、その一、スポーツだけでは食べていけない人が多いので〈んー〉、んー、そういうスポンサー、とか〈んー〉、コマーシャルの部分も大事だと思います。
- T: んー、であの一、ま、あの一、そういうのもあれなんですけど、あまりに商化してないでしょうか？
商の、はい。
- I: んー、確かにそう、おっしゃられるとそうですね。
んー、特に、まあ、初めて〈んー〉中国で、開催されたってことなんで〈うん〉、商としては、申し分のないことじゃないすか。
- T: んー、でも例えば、あの一、ご存知でしょうか、にゅう、にゅう、えー、開会式のときに、あの一、歌が

K014

上手な人を吹き替え〈あー、はい〉をしたようなことがありました。

あそこまでして、形を作る必要があるんだろうかと、あたしは思うんですけど、いかがでしょうか？。

I : は、必要ないと思いますね〈ええ〉、うーん。

その辺は、やっぱり〈うん〉、どういう基準で〈うん〉、そういう人たちが〈うん〉、えーっと、歌も歌えないのに〈うん〉現れたのか、そういういきさつとか〈うん〉、そういうこと、も〈うん〉、ちょっと考えてみると面白いんじゃないすかね〈うん〉。

でも、ちょっとあれはやりすぎじゃないすかね。

T : うーん、なるほどね。

あの一、お仕事なさっていて、やっぱり日本の会社とブラジルの会社ではやっぱりやり方が違いますか？。

I : あっ、ぜんぜん違います。

T : あっ、あの、例えばどんなところが違うでしょうか？。

I : うーん、特に、あの一、一番はニュアンスですね。

T : ニュアンス。

I : はい。

例えば日本の会社で〈はい〉、それは、えー、ちょっと考えさせてくださいっていう意味だと、ノーっていうことですよね〈はい〉。

ブラジルとか欧米の会社は考えさせてくださいっていうのは、ポジティブの面で、けん、検討しますということ〈はい〉なので〈はい〉、そこら辺のニュアンスが〈あー〉、ちょっと、あの、違うと思います〈んー〉。

で、もう一つは〈んー〉、やっぱり〈んー〉、えーと、外国の、特にブラジルなんですけど〈はい〉、時間にルーズ。

日本は〈はい〉、みんな、きちんと、時間に〈はい〉、予定通りに〈はい〉、やってくれますね〈ええ〉。

だからその辺、のちょっとあのカルチャー〈はい〉が、あの、ちょっと異なると思います。

T : ええ。

であの一、その、ものの言い方のあいまいさはね〈はい〉、こちら日本も変えるべきだと思うんですけども、時間厳守って言うのは、やっぱり、あの、他の国も、もう少し守ってもいいん、じゃないでしょうか、どうでしょうか？。

I : そうですね〈ええ〉、そう言われると〈ええ〉。

でも、あの、東南アジアとかブラジルとか〈はい〉、そういう、えー、なんと言いますか〈はい〉、ちょっとルーズ〈うん〉、的な国ですか〈うん〉、まあ、遅れて当たり前みたいな〈うん〉感覚なので〈はい〉、反対に、こ、カリカリしてると〈うん〉、どうして怒ってんのかっていう〈ほー〉、反対に、あの〈ええ〉、聞かれるので〈はい〉、その辺は、えー、やっぱり、その、土地のカルチャーに〈うん〉従うしかないですね。

T : うーん、でも、その、だから理解し合うことが大事だと思うんですけども、なかなかそれがうまくいかなくて、フリクションが時々起こってますよね〈はい〉。

それを、ま、解消するには、どんな、もうちょっと抜本的な、あの、こう、方策っていうのを考えたらいいでしょね。

I : んー、確かに〈はい〉、やっぱり、一番いいのは、その、時間厳守する〈うん〉ことですね〈うん〉。

んー、そうすれば、まあ、問題〈うん〉が無いし、あいまいなこと〈うん〉っていうのは、削減されるんじゃないすかね。

後は〈うん〉相手のカルチャー〈はい〉を、あの一〈んー〉、理解すること〈んー〉、それが大事なことだと思いますね。

T : うーん、なるほどねー。

そうですか。

で、あの一、今、あの一、日本では、あの、労働力不足で、あの一、ま、留学生〔携帯電話が鳴る〕30万人計画が出たり、あっどうぞどうぞ。

I : ご、ごめんなさい〈はい〉、ちょっと、消します。

T : はい、はい、続けさせて頂きます。

I : ごめんなさい。

T : いえいえ。

I : ちょっと、マナーモードにしてなくて。

K014

T: あっ、とんでもないです。

あの一、移民1000万人計画なんかおね(はい)、あの一、出してる、してる人がいるんですけども、あの一、それについてはどうお考えですか？

I: えー、これから日本はやっぱり(はい)、少子化、の時代なので、労働力(はい)がやっぱり減るっていうことは、それだけGDPも減って(はい)、あの一、発展も、えー、鈍化するっていうことなので、やっぱり、能力のある移民の人を(はい)どんどん(ええ)入れるべきだと思います。

T: そうですね。

で、わたくしも、あの一、根本的には賛成なんですけれども。

二つ理由があって、一つはやっぱり、数が多すぎる、急に、その、目標値が。

二つ目は、それだけ日本の社会が整ってない。

それを先にすべきだと思うんですけどいかがでしょうか？

I: そうですね。

確かに、えーっと、それだけの規模の方たちを、まあ、移民で、入れるようなインフラ(はい)、あと一、そういう、体制、の方は、まあ、整っていないと思いますね(ええ)。

えー、そちらのほうをやっぱり早く(んー)、整備、していくべきだと(んー)思います。

まあ、あー、徐々に(んー)そういうことを(んー)していけばいいんじゃないすかね。

T: あー、そうですかー。

I: まあ、一度に、入れるのではなくて。

T: どんな点が特に、日本の場合足りないですか？

そういう配慮が足りないんでしょうか、受け入れに関して？

I: うーん、やっぱり、えー、例えば、医療関係(はい)、あと教育。

で、長い間、まあ、あの一、移民で、来ていただこうと思えば、それなりの(はい)制度をととの(んー)、のけな(んー)、整えなければ(はい)、安心して住めませんよね？(はい)。

だから、安心して、まあ(ええ)、住めるような(はい)制度を(ええ)作るべきじゃないすかね。

T: そうですね(はい)。

具体的にはそんなことが今、あの一、これから、求められるんでしょうか？

I: うーん、例えば、主に、一番心配なのはやっぱり(はい)医療関係ですかね(はい)。

で、お医者さん行っても、まあ、英語できない(はい)お医者さん、(んー、んー)看護婦さんが多いので(はい)、まあ、できるだけ、英語、その国の(はい)言語を(はい)しゃべれるような(はい)方を、えー、育成していくこと(んー)、あと教育も、同じですね。

T: んー、なるほどね(はい)。

で、医療っていいですね、あの一、確かに、その、言語が話せる、いろんな言語話せる医者も必要なんですけど、もう、日本の医療制度そのものが今、崩れそうで、医者不足、えー、集中してるというようなことがあるんですけども、その辺はどのようにお考えですか？

I: んー、そうですね(はい)。

確かにやっぱり、日本の、医療制度っていうのはお医者産不足で(はい)困ってるって(はい)思いますけど(はい)、まあ、んー、んー、外国人のお医者さんっていうのは(はい)、えー、日本に入っても(はい)、いちとして、えーっと、働けないので(んー)、その辺はやっぱり、あの一(はあはあ)、んー、試験制度とか(はい)、お医者さんの数を増やしていくべきだと思いますね。

T: なるほどねー。

I: あっ、そうですかー。

T: あの一、そうですね。

医師として、もっともっと、外国の方が、あの一、活躍できる場、っていうことですよ(はい)、はい。

で、あの一、日本の労働力不足ですとか、今、経済発展の話がでたんですけど、経済発展というとほんとに、今、中国そうですけれども、この環境破壊の問題が、大きな問題になってきてますよね。

えー、それについてはどうお思いですか？

もう、大気汚染の、こととかすごく問題になっていると思うんですけども。

I: はい(はい)、んー、そこは、んー、やっぱり、あの一、経済発展っていうのは、トレードオフがあると思うので(はい)、発展するには、やっぱり環境汚染とか(はい)、そういう、問題も(はい)出てくると思います。

K014

えー、で、やっぱり、その環境、問題、対策に強い、日本、あるいは欧米の、まあ、ヨーロッパ〈はい〉ですか、技術とかどんどん取り入れて〈ええ〉、中国の方で、お互いに協力し合って、ま〈んー〉、地球温暖化とか〈んー〉、そういう問題が出てくるので〈んー〉、如何にして〈んー〉、まあ、そういう、CO₂を減らすとか〈はい〉、そういうことは、まあ、世界的、で、みんなで〈はい〉ディスカッションして〈はい〉、なん、何らかの解決〈はい〉を見つけるべきだと思います。

T: はい。ただ、あの、この間の会議でもそうですが、CO₂削減に関しても、えー、発展途上国と、それから、あの一、先進国とではやはり、意見が非常に対立してしまいますよね〈はい〉、はい。

そのあたりはどのように調整をすればいいのでしょうか？。

I: んー、そこはやっぱり〈うん〉一番難しいところですね〈はい〉。

発展途上国っていうのはやっぱり、どんどん発展して〈んー〉、国民もいい生活〈んー〉したいと思うので、でCO₂、どんどん〈んー〉、あの一、工業化〈はい〉、諸々で、えーっと、発生するかもしれませんが、〈はい〉まあ先進国のほうでそれを補って、えーフォローアップ、〈んー〉みたいな形で、〈んー〉技術提携、んー、んーと、を、するべきじゃないですかね。

あと、一番大事なのは、その、あ一、先進国と、発展途上国を、皆さん、同じような、目標を〈んー〉、えーと、持つ事だと思います。

T: うーん、同じ目標ですね〈はい〉。

で、日本は、なんか、やはり、その、えー、交渉能力とか、そういうところが非常にちょっと、まあ、欠けているともよく言われるんですけども、日本が果たすべき役割というか、それは辺はどんな風にお考えですか？。

I: 環境問題でやっぱり〈はい〉、日本の技術っていうのは〈ええ〉どんどん進化して〈んー〉、えーと、すごくいいものがあると思うので〈はい〉、それを、いかにして、えー、貢献できるか〈んー〉ですね。

まあ、ライセンス提携でも〈んー〉いいです〈んー〉けど〈んー〉、いかにして〈んー〉、まあ、えー、そういう国々の〈んー〉発展途上国の人たちに〈はい〉、あの、使用してもらって〈ええ〉、まあ、CO₂でも削減できるような方法を〈ええ〉、まあ、リーダー的な存在で〈うーん〉どんどん推進していくべきだと思います。

T: はい。

そのためには、ちょっと、今の、政治の、あの、混迷はなんとかしないとイケないです、はい。

あの、今、色々お聞きしましたので、今度は、ちょっと、あの、ロールプレイをしたいんです〈はい〉けれども、ご存知でしょうか？。

I: いや、知りません。

T: あの、ミニドラマということで〈はい〉、はい、ちょっとやらせてください〈はい〉。

で、あの一、先ほど、えー、大学院で勉強してらっしゃるということでしたので、あの一、その大学院のゼミ、の仲間で、えー、そうですね、環境問題の、あの、専門家を呼んで、ちょっと、あの一、ミニ講演会をやろうということで、実行委員長ということで。

わたくし【大学名】大学の学長にしましょうか〈はい〉。

全然会ったことのない、そういう人の所にいって、あの一、講演会の交渉を頼んでください〈はい〉、はい。どうぞ、いらしてください。

I: わかりました。

えーっと、はじめまして。

T: はい、どうも、はじめまして。

I: 私、あの一、【大学名】大学の〈はい〉、えー、た、あ、博士課程〈はい〉後期の【I】と申します。

T: あっ、はい、よくいらっしゃいました。

I: どうもありがとうございます〈はい〉、今回お時間いただいて。

えー、あの、今回あの、田中ゼミのほうで〈はい〉、その、環境問題に対して〈ええ〉、そういうコンファレンス[コンフィレンス]、で、いろんな〈はい〉ご意見を、聞きたいと〈ええ〉思いますので〈はい〉、そこで、まあ、えー【大学名】大学の学長さんで、で、に、あの、ちょっとお願いできないかと、ゼミの、一同、検討しまして〈はい〉、それで、今回は、まあ、お願いしに、来ました。

T: はい、えーと、どのような内容でしょうか？。

えー、特に、その、環境問題問題の、はい。

I: はい。

K014

えーっと、環境、んー、えー、まあ、あの一、一回、まあ、ゼミの皆様と、えーっと、うん、定義さして
 いただき、きまして〈はい〉、そのときに〈はい〉、やっぱり一番の問題になっているのは、その、日本〈は
 い〉が、どういう、環境問題、技術に、に対する、リーダーシップ的な存在を〈うん〉、えーっと、発展途上
 国を、まあ、に、示せるかっていうことを、テーマとして〈はい〉、えー、いろんなご意見を頂きたいと思
 います。

T : あー、そうですか。

わかりました。

えーっと、それがいつでしょうか？。

I : 日程は10月の中旬ぐらいに、考えておりますけど〈はい〉、えーと、学長さんの〈はい〉ほうで〈はい〉、
 えーっと、オプションを、え、あの一、日程のオプションいただければ〈はい〉、ありがたいと思います。

T : わかりました。

じゃあ、あの一、ちょっと、また検討して、えー、先ほどの、あの名刺のところに、連絡をしましょう。

はい、〈はい〉わかりました。

その、えー、必ず、う、伺いたいと思います。はい。

I : どうもありがとうございます。

じゃあ、検討のほどよろしくお願ひ致します。

T : はい、わかりました。

ということで、えー、まあ、あの、あれなんです、こんなことありますか、時々誰かを呼んだりとか？。

I : そうですねー〈はい〉。

今はあんまりないですね〈ええ〉。

で、そういう、あの一、やっぱり、あの一、担当の者が、いるので、そういう〈はい〉方たちのほうで〈う
 ん〉、その、アレンジしていただいて、私は、参加させていただく、って形ですね。

T : そうですか、はい。

で、あの一、もう一つやっていただきたいんですが〈はい〉、えー、【I】さんはお仕事もなさって、えー、
 今あの、博士課程にもいらっしゃる。

一所懸命、こう、色々レポートを書いたり、論文書いてらっしゃるのにですねー、はい、これちょっとお
 読みください、はい。

I : あなた…

T : あっ、ちょっとお読みください。

I : はい。

あなたはアパートの自室で勉強しています。

でも部屋の前で子供がうるさく遊んでいます。

子どもに静かにするように〈はい〉言いなさい。

T : はい。

ちょっと、急にですね、わたし三歳のまりちゃんになりますので〈はい〉。

わたし、うるさくしていますので、ちょっと注意をしてください。

はい、お兄ちゃん、今日天気いいね。

I : あの一〈うん〉、すいません、ちょっと、あの一〈うん〉、今日中に〈うん〉仕上げなければいけないレポ
 ートがあるので〈うん〉、部屋の前より、うーん、で遊ぶより〈うん〉、公園のほうで遊んでくれませんか？。

T : うーん、どうして？。

うるさい？。

I : ちょっと、あの、うるさいんで〈うん〉、まあ、あの、他の人に迷惑かかると思うから〈うん〉、できるだ
 け、遊んでもいいけど〈うん〉、まあ、静かな公園で〈うん〉遊んでください。

T : うーん、そっかー、うーん。

わかったわかった。

はい、うん、じゃあ、向こう行くね、はい。

I : はい、ありがと。

T : はい。

えーっと、ですね、じゃあ、あの、もう一つ、ちょっと、したいんですけども、あの一、日本人で、え
 ー、とても仲のいい友達っていらっしゃいますか？。

K014

I : います。

T : います〈はい〉, いらっしゃいますか。

えー, それは大学の友達, ですか, じゃなくて, 仕事?。

I : し, えーと, 同級生とか, 昔の〈んー〉, で, 仕事関係でも, いらっしゃいますね。

T : そうですか。

えーっと, さっきの, あのー, じゃあ, あの, ミニ講演会をやるっていう, そのときに, 【大学名】学長の
とこいきましたよね〈はい〉。

そのこと, ちょっと一杯飲みに行って, そのことをちょっと, あの, 話してくださいね。

いいでしょうか〈はい〉。

えー, 親しい日本人の, ほんとに親しい友達。

よろしいですか〈はい〉。

おい【I】, こないだ, なんか, あのー, あれに行ったんだって, あのー, 【大学名】学長, 【大学名】の。
どうだった?

I : えー, んー, そうだね〈ええ〉。

あのー, 話したところ〈ああ〉, なんか, オッケーみたいな返事くれそうだったけど〈ああ〉, また, ちょ
っと検討しますって, 〈ああ〉言ってらっしゃんたんで〈ああ〉, それはー, まだ今の段階ではなんとも言え
ないね。

T : そう。

でもどんな人だった?。

な, ちょっと, ほら, 難しいつって聞いたけど。

I : んー, いい人柄の, いい印象だったよ。

T : あ, ほんと。

I : はい。

T : んー, そうなんだ。

そんな, こう, えばってる感じじゃなくて。

I : んー〈ああ〉, 全然そういうような, あのー, 雰囲気じゃなかった。

T : あほんと。

それで【I】, この頃どう?。

論文うまく進んでる?。

I : あー, 全然。

こないだも先生に怒られてばかりで, 〈うん〉ちょっとまずいなって思ってたよね。

T : ほんと。

ま, 仕事と両方だら大変だよなー, お互いねー。

I : まー, そういっちゃあ〈ああ, ああ, ああ〉, はは, は, 言い訳になっちゃうんだけど〈ああ〉, 確かに仕
事, と〈ああ〉両立するのはちっと難しいかなー。

T : だよなー。

でもお互いがんばろうねー。

ま, 今日ちょっと飲んでさ, あ, で, 明日からがんばろう。

I : ありがとう, 慰めてくれて {笑}。

T : {笑}, はい, ありがとうございます〈はい〉, 何回も色々やっていただいて。

えーっと, 今日は, もうお昼ですけれども〈はい〉, これからお昼を召し上がって, 今日は何時ごろまでお
仕事ですか?

I : 今日は一〈はい〉, 7時までですね。

T : そうですかー〈はい〉。

どに, 土日なんかも, もう, ほとんど, こう, 論文のほうでお忙しいんですか?。

I : ま, 結構忙しいですね。

T : はい, そうですか。

そんな, あの, お忙しい【I】さんに, 今日, どうもありがとうございます。

I : いえいえ, こちらこそどうもありがとうございました。